

今日地震の話を知り、地震の怖さを改めて知りました。親聞はその時代で一番の情報源というほど大切なものなので「命にかかわるお仕事だ」と思いました。

人の命にかかわるタイプな情報もまわりの本当に難かしいのは本当にすごいと思いました。災害が被害にあった神戸のことを深く知ることが良かったです。

②このように震災でも協力するところが“大切な”と
改めて思いました。あまり新聞は読まない

私は大きな地震を体験したことはないけれど、
映像を見るだけでもすごく怖いことだと...うこと
は伝わるし、大きな揺れということが分かりました。

今年は何度も地震があり、あまり揺れがなかった
神戸でもくるのではおどろきと恐怖でした。地震は
いつ、どこからか大きさが予測できないのでそこが
一番怖い所だなと感じました。消防士の方や助けて

くれる人がたくさんいる中で現場に来るのが遅くなってしま
うところが難点だなと思いました。電気、水道すべてが止まってしまう。
復旧するのにすごく時間がかかってしまうのは困ると思いました。
お父さんから聞いた話で、飲み物がほとんどなかったことから悪い人たちが
飲み物を高く売ってお金をかせぐということを知っていたと聞いて↑

くれる人がたくさんいる中で現場に来るのが遅くなってしま
うところが難点だなと思いました。電気、水道すべてが止まってしまう。
復旧するのにすごく時間がかかってしまうのは困ると思いました。
お父さんから聞いた話で、飲み物がほとんどなかったことから悪い人たちが
飲み物を高く売ってお金をかせぐということを知っていたと聞いて↑

地震は大きい地震をまだ経験したことがなく、小さい地震しかないと
けど今回見せてもらったドラマの地震が起きたシーンで少しビクッと
しました。地震が来るタイミングを分かっているのに驚くこと
いうことは何も知らずに急に来るのはもともと、言葉では言い表せな
いぐらいだ、たんだろうと感じました。恐怖を感じながらも皆のため
めに記事を書く、写真を撮る、新聞を作る人達は格好良いなと
思いました。

高校生 防災と新聞記者 講座

自然災害に対する認識は重く考えており、私自身、前もって対策、備えはしてはいるつもりです。しかし、実際は経験したことも無く、前もって「地震があつて〇時間後にまよつた。」という情報もないから、急にやってくるものに上手く対応できる自信はありません。紙類での新聞はとっていません。でもかゝSNSで「新聞記事など」簡単に読むことが出来る時代に感謝して生活してはいると考えました。

新聞記者だ、た人の話を聞いてみて、
きせい者の生きた証しを残すことの話や、
災害時の備えなどたくさんのお話を
知ることができました。

また、震災を知らない高校生たちが、たくさん
のことを知って、小学生の人たちに教えている活動
をしていることも知りました。

僕がこの地震を知ってから、もう30年が経た
この災害は、神戸にとっても大きな深い傷を
つけた。僕はこの話を聞くたびに思うのは、たく
さんの人と助け合うのは、とても大切なこと
です。神戸はとても早い回復をし、すぐに元の
形に戻るとある気持ちから、神戸市民が一丸と
なり、多くの助け合いがあったから今の神戸があると

思うと、胸が痛くなるのもあるけれど、自分もがんばりたい
としかたしと思ふ

また"人生で"震度6以上の大きな地震にあつたことがないで、話を聞いてもあまり実感がわかれないし、想像もあまりできなかった。それから、阪神淡路大震災の映画や、当時の生々しい写真などを見て、いかにこの地震が人々にくろろをあたえたかを、なんともなく、あの想像でできました。

私は大きな地震を経験したことがなく、その時の状況
や被害の大きさなどはまったく知りません。なので今回の話
を聞いて、改めて神戸の地震の被害や、どのような揺れ
があったのかやたくさんのお話を、分かってもらいました。これ
まで地震について学んできたけど、今回の講座が過去一
自分にひびき、住んでいる人の心のつらさや、神戸新聞
本社の方達の勇敢な行動に心を動かされました。

今回実際に体験されたお話と作られた映画を観てこの感想
としては、私自身が想像していた地震よりも何倍も大きいもの
で、こんなにも苦しい、辛いものなのかと考え直さなければならぬ。
能登半島地震が1月1日の元旦から起こりました。地震域は遠
く、阪神、淡路大震災と同じように苦しんでいる人が多くいるの
かもしれないと思ったので、今、私ができることは寄付をすることくらい
しかできないけれど、誰かのために何かの行動ができるように最善をつくします。

高校生 防災と新聞記者 講座

震災の中にも、神戸新聞の方々は、新聞を
発行するために、京都に行き、毎日発行
しているのは、すごいと思っております。
私たちは、復興のための取材をしていく
のは、地震が起きたばかりで、みんなのために
できるだけの情報を、あていけるのは、本当に
すごいと思っております。

阪神淡路大震災のことは良く聞きました。ニュースでも見ました。授業でも習ったのでよく知っています。でも、今回の授業を受けてまた「また」いろんなことがあったと知りました。「72時間の壁」という言葉や、被害を受けた人達や、助けやあつたことをいの子供たちが気持ちでまっていたということがとても印象に残っています。聞くと「

けいやくなく、二本からの南海トラフなどに備えて対策や、まわりには伝わりといたことも大事だ」と感じました。

今日の講座を聞いて、じしん
がおきたあとの新聞の内容
を考えるのかとてもむずか
しいな、と思いました。くさ
内容にしてもかなしくなるし、
明るい内容にしても、しんどいから
考えるのが大変だと思いました。

新聞記者の講座を聞いて、阪神淡路大震災の時と
能登半島地震の時では「7時間の壁」ということも常に
頭に入れて生きていると聞いて、ものすごく怖さを感じました。
実際の神戸新聞の記者の映像を見て感動しました。どん
どん自分の家がめちゃくちゃでも家族の安全が確認でき
ると、すぐ社員に行くのかとだけ神戸を大切に思っているの
かが分かりました。

15年間生きてきて、実際に大きな地震を見たこともなか、たし、体験もしたことがなかつたけど、今回の授業で聞いたことが、動画を見て改めて地震の怖さを知りました。

今回の授業「防災と新聞記者講座」を通して、地震の怖さを改めて感じました。小学校、中学校でも震災のことをたくさん学んできたけど、今回の授業を聞いて理解を深めることができました。体験していない私にできること、受け継いけることはなにか、改めて考え、自分にできることは全力で取り組みたいと思いました。

地震の映像の映像をみてはじめてみんな
に震度7の地震がのちをきてびっくり
しました。おまじんの話をしてどけ
ほど大変だ。たか話をきいてとても伝わ
ってきました。今回学んだことを忘れな
いようにしていただきます。

今回の講座で阪神、淡路大震災が起った
時の神戸新聞社について聞くことができました。
動画をみたりしてとても地震の怖さ
を感じる事ができました。新聞社の人たちは
自分たちが被災しているのに、市民のため
に、安全確保の情報や、神戸の今の状況を
発行したりして、おこいほと思いました。

話しや映画を見て、とても怖か、たのめ、も、と
おそろしいものだと思いました。

今年の1月1日にほぼ同じことになって
いるのもとてもいいし、もう二度とこん
なことはほなってほしくないと思
いました。

講座を受けて、今まで以上に地震への向
き合い方を考えていかなければいけないと思いま
した。記者さん達は大地震が起きたとし
ても、被災者達の事を考え新聞にして伝え
ることが一番印象に残りました。大地震は
いつ起きるか分からぬので、家族と話し合
い命を守るためにやるべきことを考えていきたいと思います。

今回の授業を受けて、改めて地震の怖さを感じました。

地震は、いつどこで起きるのか誰にも分からないものであり、突然

起ると、人びとや町を傷つけてしまう地震では、たいていの方が苦勞

し、木造住宅が壊れてしまったり、町が町ではなくなってしまう現実が

目の前で起ると、常に起るとして考える事も大切だと改めて思いま

した。今の日常がいつまでも続くとはなく、常に身中中身の備えがあるかも

大切な事と改めて感じ、一日一日を大切に過ごしていきたいと思つた。

今回、阪神・淡路大震災時は読者に役立つ
情報が大切。例えは、"どこか"と"いつ"という
こと。しかも新聞には私たちが読者が知ること、
役に立つ情報を知らせることができ、震災時
は更にその、ニーズも高い。取組むに
記事を書いている記者は、そのことを感じ
ました。

1995年1月17日に大きな地震があったことはこれまでに
沢山学習してきた。だが、自分自身が大きな地震を
経験したことはない。今回の講座で改めて、地震の
悲惨さを思い知った。たったの数分、数秒の間で、
何百人、何千人とせくなってしまふことに心が苦しくなった。
地震を経験していなくても、他人事とは思わず、地震に
ついて学び後世に語り継ぐことが大切だと思う。

阪神・淡路大震災の当時は、本当に大変で、じりじりしていけない状況だったと思うけど、その中でも神戸新聞社の方々が一生懸命発行していたというのを聞いて感動しました。たくさんの方々が神戸新聞社の方々のおかげで助けられたんだと思いました。これから頑張ってください。

私は大きな地震を体験したことはないけれど、お母さんが長田区出身だったので火災がとて多かっただというのを知ったことがあります。最近、地震が多くテレビを見ても、南海トラフについてのニュースがよく出てきます。みんなが南海トラフに備えて、水やお米、防災グッズがどこにも無いというニュースを見ます。地震に備えておくことはとても大切なことだと実感する回数が増えました。防災グッズなどを集めたいです。

三好さんの話を聞いて、新聞記者の方はすごい
と思いました。震災の中でも、震災の情報や様子を
記録して、新聞作りをあきらめずどんなときで
も、現場にすぐ入行き情報を集めてすごいと思
いました。他にも、震災の出来事を忘れないように
人々に新聞などで伝えていってすごいと思
いました。

阪神・淡路大震災の危機でも
神戸新聞は京都新聞の力を貸りな
からでも新聞を発行できたのは
すごいと思いました。震災が起き
神戸市民は神戸市で何が起きているか
分からない状況で新聞が発行され神戸市の
状態を知れたことはありがたいことだと思った。

今回の授業で講師の方の話を聞いたり、ドラマを見たりして改めて地震の怖さや日常の大切さ、そなえることの大切さを知りました。私は今まで、身内の人が亡くなったり家が壊れたりするような大きな地震を体験したことがないため、ニュースで地震の話題が上がっていてもあまり気にはならなかったけど、いつ今の大切な日常が壊されるかわからないのにはそんな甘い考えをしてはいけないと思いました。

自分のためにも自分の大切な人のためにも過去の事だからと思わずに、これからそなえたり自分のできることをしていきたいです。

今回の防災についての講座を通じあらためて災害はどんな
怖いものなのかを感じました。阪神・淡路大震災や東日本
大震災のようについて、どうして起こるのか分からない自然災害
が多い国だからと準備をせよといっていると思う。来年は
阪神・淡路大震災が起きる30年となる。30年たった今だからと
私たちがどうして震災を知らない世代にも受け継ぐ必要があると思いはした。